

紹介

『ふしぎふしぎ発見・探検博物館』

佐々木 朝 登*
Asato SASAKI

上記のユニークなネーミングの本があいうえお館から刊行された。元会員の国立民族学博物館々々長梅棹忠夫氏推薦の全6巻である。

監修も会員の明治大学教授倉田公裕氏であり、編集委員は、国立民族学博物館助教授の大塚和義氏、明治大学文学部助教授の矢島国雄氏である。

執筆陣も、大塚和義、高橋貴、中村齋、西村辰美、塩満郁夫、山下廣幸以下5名、早川智明、富樫泰時、松澤正二、大堀哲、千地万造、七海東洋治、中村日出夫、永嶋道廣、竹内功、南利明、柏秀人以下5名の諸氏であり、会員の方も多く見受けられる。

倉田氏の言葉にもあるように、「現在2,500館あるといわれる中で、12館だけを選ぶことは大変にむづかしいこと、また、このシリーズに入っている博物館は、特に優れた代表的な博物館だと思います」

編集委員も、「世界の名作や、さまざまな科学の分野や、歴史とか、美術とかの世界に分け入った、新しい体験(Museum experience)をすることも探検といえるでしょう。

博物館は、まさにそのような探検のできる世界なのです」といっている。

これが探検博物館といわしめたと思われ、私も大いに共感を覚えている。

文字が見やすく、写真や図版もカラーを多用し、資料や、それが展示されている館内の様子、適所に、荒井孝昌、森脇逸美、杠聡氏たちのイラストレーションが入り、見ても楽しいものに仕上がっている。

私が特に強調したいのは、博物館の実務を見ず、博物館の目的も知らないジャーナリストが、流行のイベントの視点で、ジャッジしたような刊行物の傾向の中で、この本の執筆者は、その設立の段階から、建設の生みの苦しみをクリアーして、現在も、その運営に当たっている人々であり、しかも、情報の発信者としての立場を踏まえて、その受取り手の利用者の立場にむしろ力点を置いて

書かれているところに、この本のユニークな価値がある。

関連博物館の所在地、電話、休館日、特長等の一覧も紹介する配慮も心地よい。

全6巻の内容は

- ① 国立民族学博物館
野外民族博物館リトルワールド
- ② 北海道開拓記念館
鹿児島県歴史資料センター黎明館
- ③ 埼玉県立博物館
秋田県立博物館
- ④ 交通博物館
船の科学館
- ⑤ 国立科学博物館
大阪市立自然史博物館
- ⑥ 通信総合博物館
NHK放送博物館

である。各館で発行されている博物館概要などの官製的な生硬さと異り、自由でノビノビしている所に好感が持たれ、一読をおすすめする。

「ふしぎふしぎ発見、全6巻 探検博物館A 5判正寸
144ページ、監修/明治大学教授倉田公裕先生、セット定価15,000円

株式会社あいうえお館 発行

東京都台東区東上野4-8-1 笠倉ビル
Tel 03-842-5811」

* ささきあさと、丹青総合研究所・立教大学
連絡先：丹青総合研究所 03-836-7600